

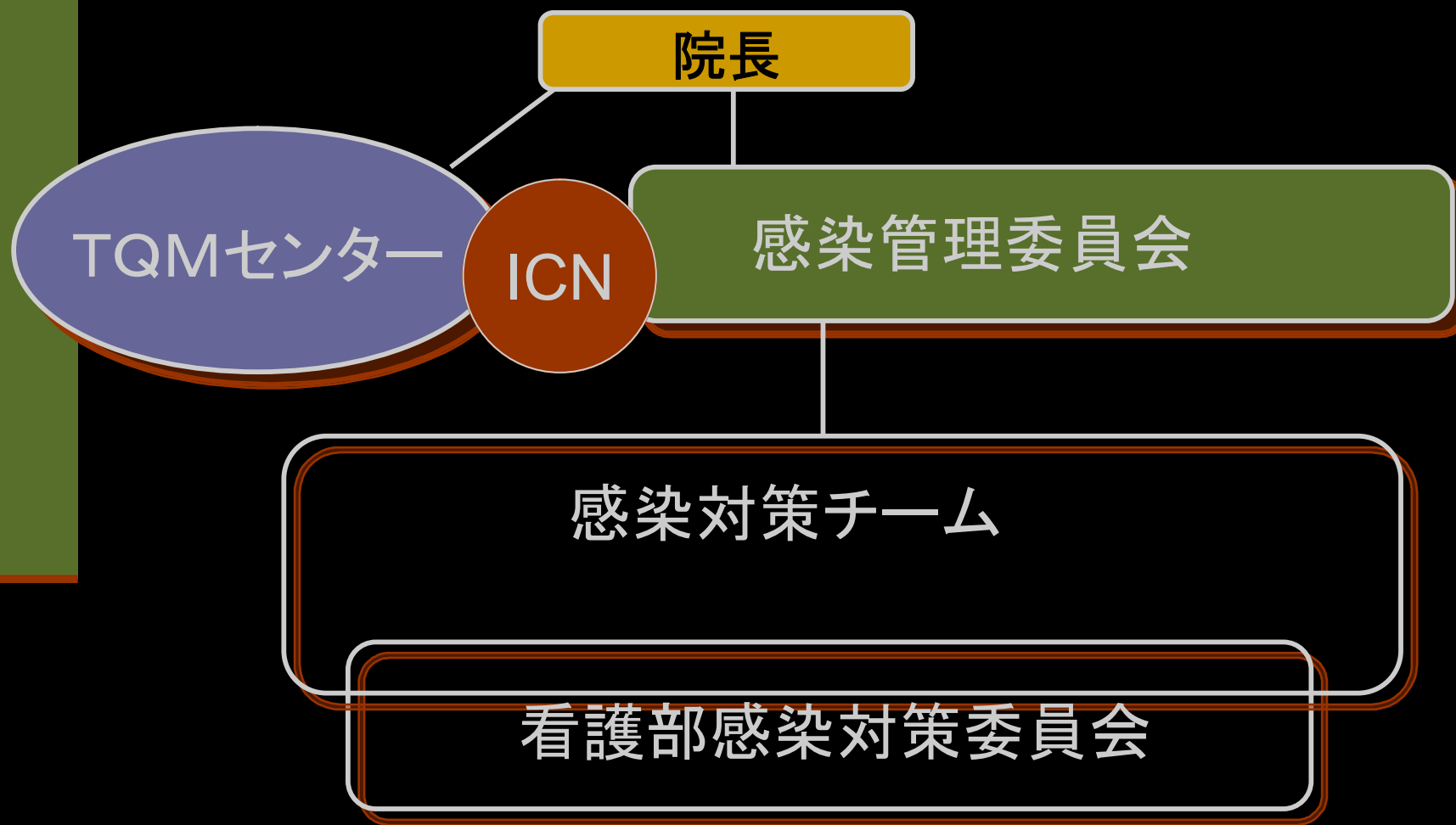
第42回 日本病院管理学会学術総会

2004.11.05/06

感染管理e-ラーニング実施
及び院外サーベイを受けて
—感染対策推進への効果—

済生会熊本病院
TQMセンター
家入裕子

感染管理組織図



従来の感染管理教育の問題点

- 感染対策の質向上のためには職員全体の知識向上が必要であるが、入職時教育だけでは補えない。
- 病院で働く職員全員に集合教育を行うためには多大な時間と場所の確保が必要である。
- 従来の集合教育では、学習の効果がわかりにくい

e-ラーニング導入の目的

- 院内LANシステムの教育への応用
 - 全職員の参加が可能(院長からスタッフまで)
 - 好きな時間に自分のペースで行う学習形態により多様な業務時間に対応できる
- 学習効果の把握
 - システム管理者は学習進捗状況を把握し、学習者との対話を行うことにより効果を知る
- 現場の問題点の掘り起こしと対策実践への意識向上
 - 現場の細かい問題点に気づく人材を育成する
 - 直接ケアを実践するスタッフの行動変容

e-ラーニングの実際

■ 対象

- 職員全員

■ 導入時期

- 平成16年1月1日～12月31日

■ 導入方法

- 感染委員会メンバーの優先実施
- 看護部現任教育コース受講者の基礎教育として実施
- 患者の直接ケアを行うスタッフに漸次開始
(医師、看護師、薬剤師、検査技師等すべての職種)
- 感染管理専任看護師(ICN)が回診などにより現場への随時の介入を行った

e-ラーニングの内容と構成(1)

IC ベーシック 目次について

トピックメニューに戻る

自分の成績を見る

| | | |
|---------------------|-----------------------|------------------------|
| 01 IC ベーシックとは? | 10 手の衛生 | 19 血管内カテーテル及び点滴に関連する感染 |
| 02 感染対策なぜ重要なのか? | 11 手術部位感染管理 | 20 抗菌薬耐性の管理 |
| 03 感染管理プログラム | 12 消化器感染 | 21 サーベイランスとアウトブレイクの概要 |
| 04 感染管理における検査部門の役割 | 13 泌尿生殖器感染 | 22 医療従事者の健康管理 |
| 05 標準予防策および防護具(PPE) | 14 血流感染の予防 | 23 洗浄、消毒、滅菌 |
| 06 血液媒介病原体 | 15 院内肺炎 | 24 水による感染 |
| 07 空気感染予防策 | 16 皮膚および軟部組織の感染症 | 25 感染管理と廃棄物管理 |
| 08 飛沫感染予防策 | 17 MRSA:メチリン耐性黄色ブドウ球菌 | 26 感染管理とランドリーの管理 |
| 09 接触感染予防策 | 18 VRE:バンコマイシン耐性腸球菌 | 27 ケーススタディの紹介 |

- CDC(米国疾病予防管理センター)ガイドラインに準拠
- 27コース(55レッスン)延べ8時間。テストを入れると約12時間
- 各レッスンは5~25分の内容。
- ナレーション(音声)とビジュアル(絵)による聴覚・視覚での楽しい学習
- 修了者には、バッジ発行


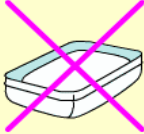
e-ラーニングの内容と構成(2)

手の衛生 6-10-3-02 操作方法

復習してみましょう Let's Try!!

手洗いの手順

2. 普通の液体石けんを使います。

目次に戻る
もう一度説明を聞く
音声説明一時停止
前ページに戻る
次ページに進む

- 学習者個々人にIDとパスワードを配布
- 各レッスン毎に、学習のまとめのテスト
- テストは出題数より多くのデータ蓄積され、テスト毎に違う問題がランダムに出題
- 70点以上取得すると成績をインターネットで送信

APIC(感染予防・疫学専門家協会)メンバーによる感染サーベイの実施

サーベイヤー

Georgia P. Dash, RN, BSN, MS, CIC

Dorothy L. Borton, RN, BSN, CIC

- 日本とアメリカの感染対策専門家による連携
- 患者の安全をめざして
- 感染防止対策のベストプラクティスを推進する



サーベイの実際

チェックリスト

Surveyor(s): G. Dash, D. Borton

Survey Date(s): January 28-29, 2004

JCQHC Standard 2.7.2. Specific infection control measures are taken to reduce risks of nosocomial infection.

院内感染のリスクを軽減させる具体的な感染対策がなされている

JCQHC Substandard 2.7.2.7 Staff education is provided regarding vaccination against infectious diseases and vaccination is encouraged.

感染症疾患に罹患しないための予防接種について職員教育を実施し、接種を勧めている

Best Score: 3 Total Score Achieved: 2 = 67%

2.7.2.7 EXAMPLES OF IMPLEMENTATION

SCORE*

COMMENTS

(Include the room/units/unit/department where observation was made)

RECOMMENDATIONS

The facility has a written policy addressing vaccine-preventable diseases.

感染症からの予防のためのワクチンで予防できる感染症についての方針が文書化されている

Vaccination policy includes requirements for vaccination, hospital process for vaccination and record keeping requirements.

予防接種についての方針には、予防接種に関する必要性、予防接種を行うための手順、記録の必要性が含まれている

Documentation exists of healthcare worker compliance with the vaccination policy, including statistics on immune status and immunization rates.

免疫獲得と予防接種率の統計を含む予防接種方針についての医療従事者のコンプライアンスを示す文書がある

予防接種についての方針には、予防接種に関する必要性、予防接種を行うための手順、記録の必要性が含まれている。

*Score: 3 = Met (implemented in 91% - 100% of observations); 2 = Partially Met (implemented in 50% to 90% of observations); 1 = Not Met (implemented in less than 50% of observations). Score is determined by adding the score for each example of implementation and dividing by the number of examples of implementation.

サーベイの実際

- **講評** ~ 感染に関わるすべての部門(管理者からICTメンバーまで)が集まり、現在の問題点について共通認識をもった
- **最終レポート** ~ サーベイの2週間後に受けとり、スピーディな対応を実施

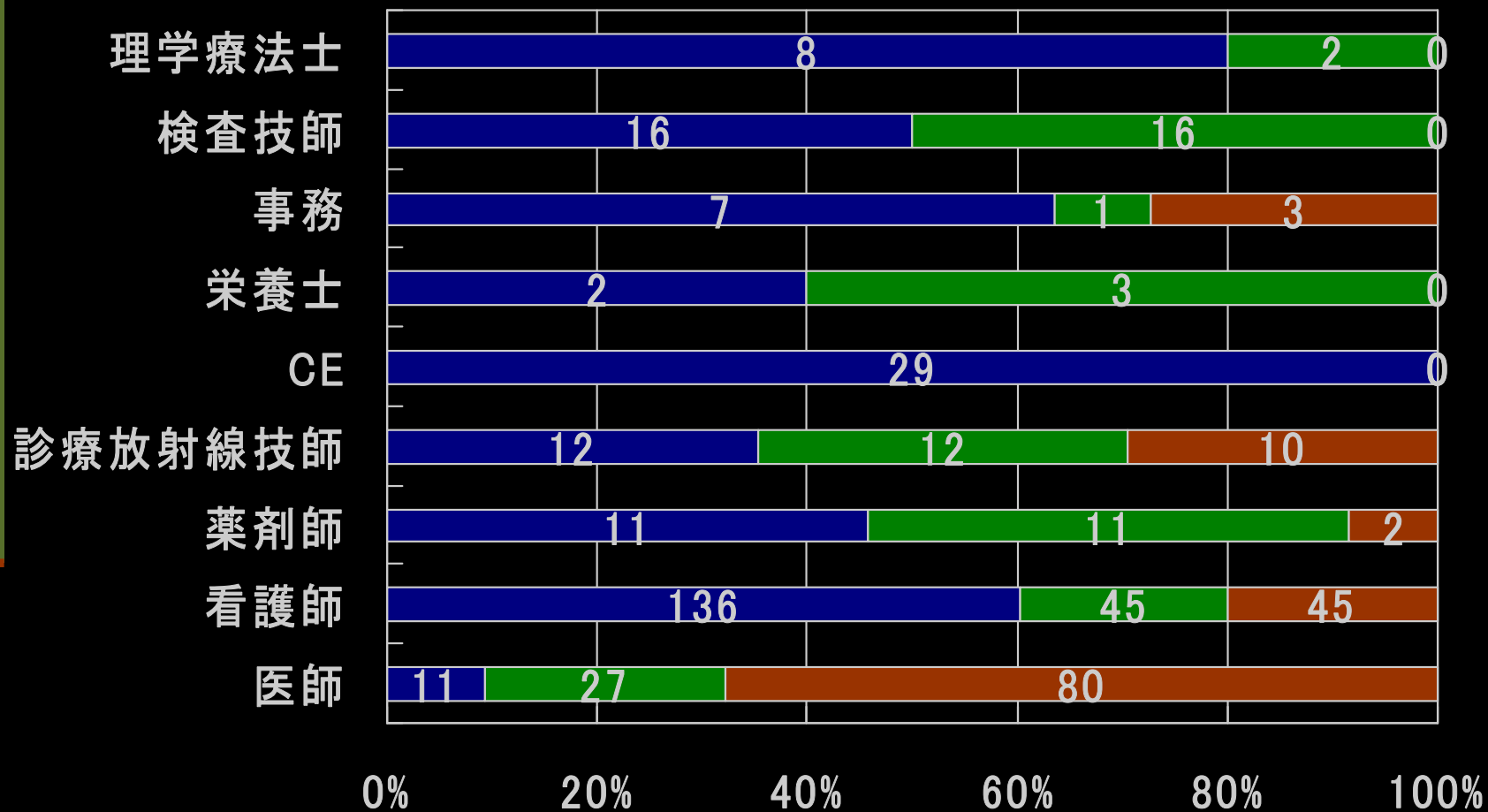


実施した対策

| | |
|----------|---|
| 平成16年1月 | エアーシャワーの廃止 SSIサーベイランス開始(心外・整形) |
| 平成16年3月 | 防護用具の見直し (手袋・ビニールガウン) |
| 平成16年6月 | 手洗い洗剤の詰め替え廃止 単包アルコール綿導入 ヘパリン生食製剤の導入 |
| 平成16年9月 | 心臓外科SSI検討会開催 防護用具見直し(アイプロテクション) |
| 平成16年10月 | 針刺し安全機材の導入検討 |

結果 e-ラーニング実施状況

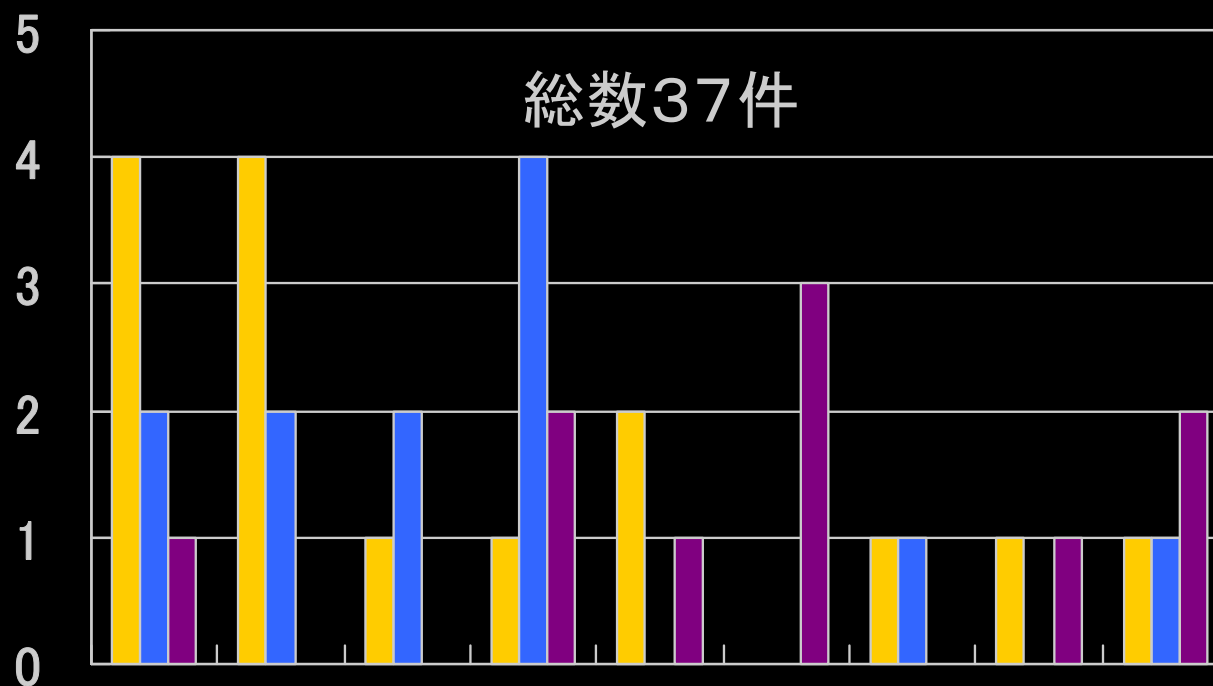
(職種別達成状況)



10月31日現在

■ 修了者 ■ 学習中 ■ 未学習者

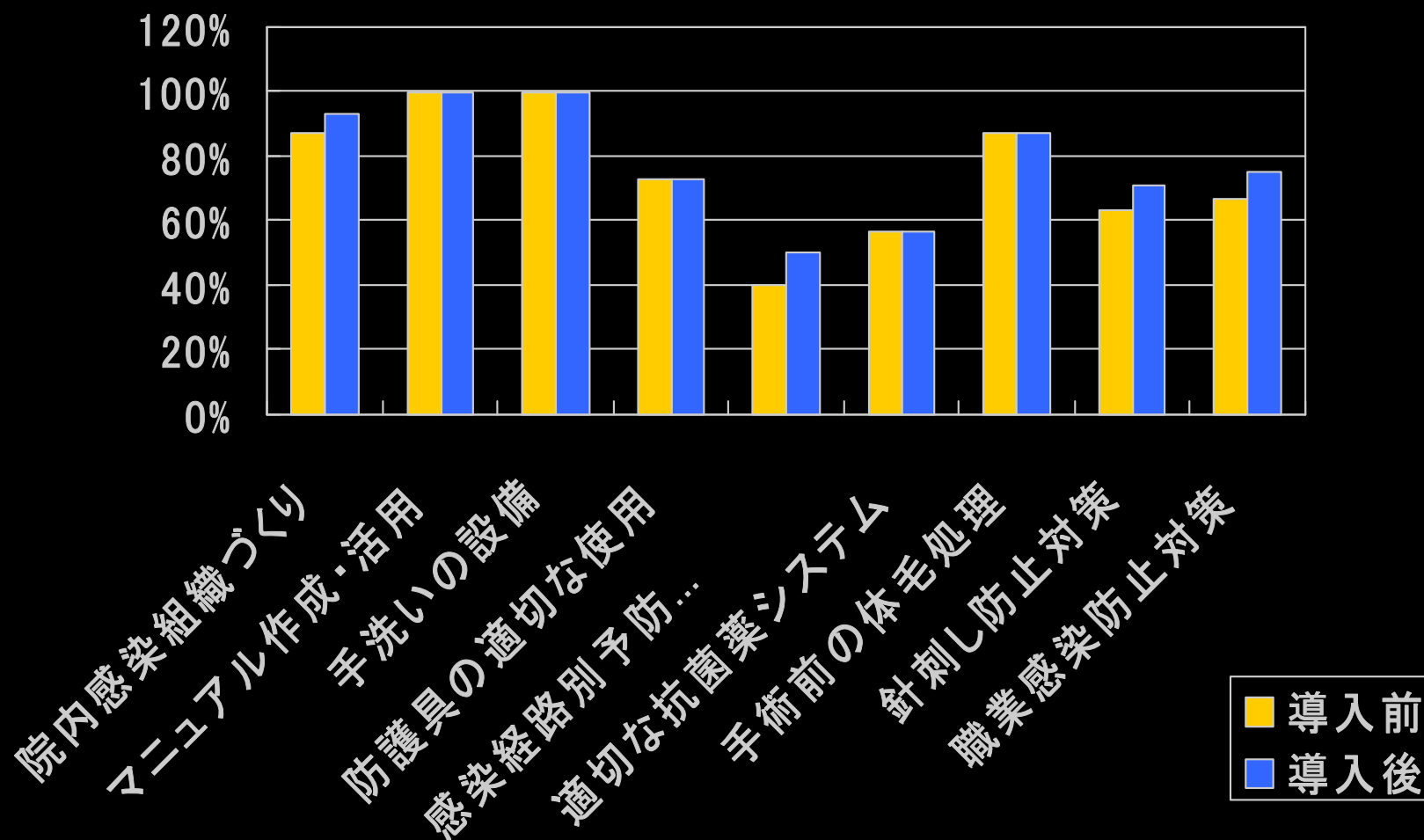
結果 e-ラーニング後の コンサルテーション状況



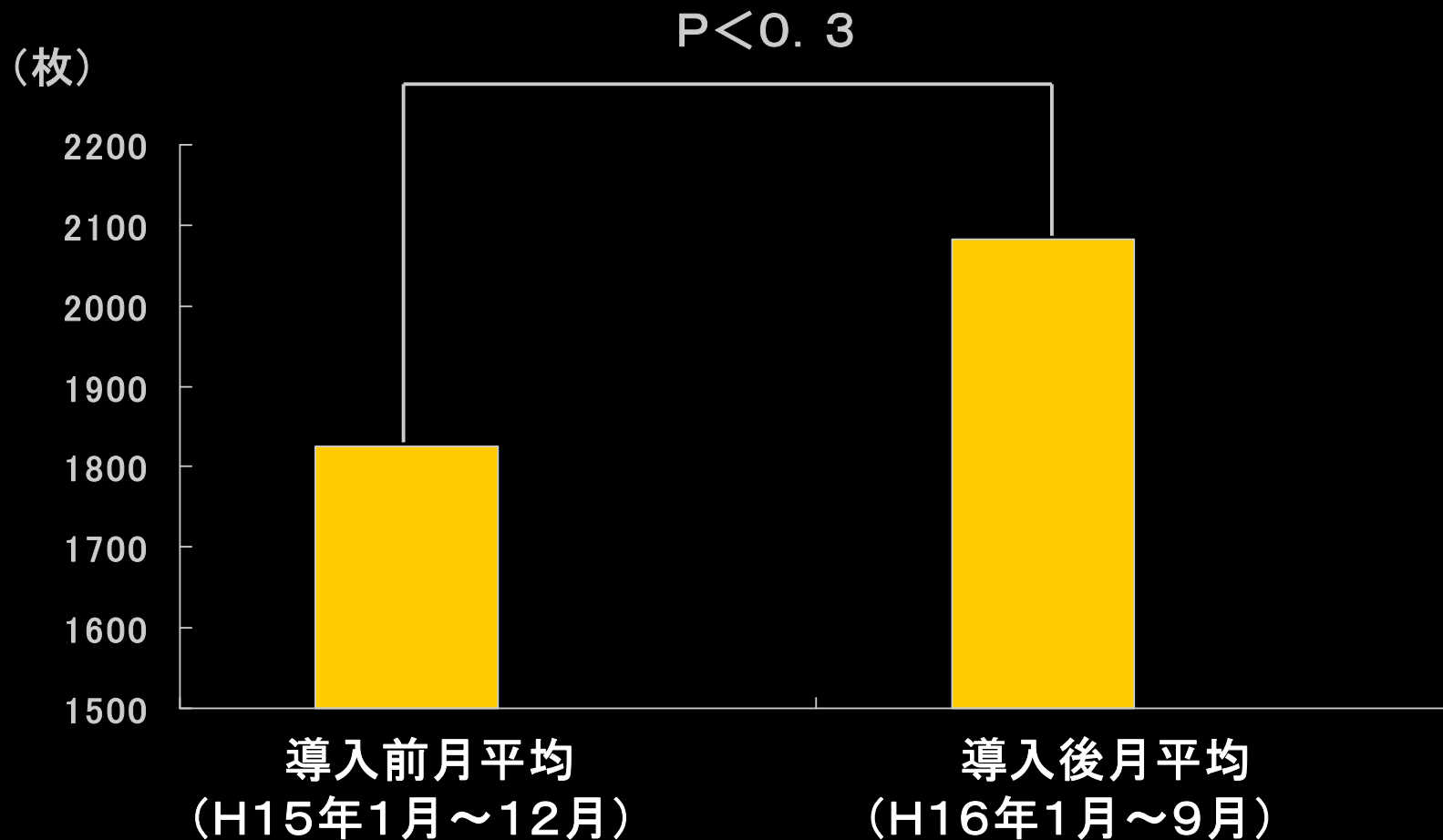
針刺し・血液暴露 結核
ウイルス感染症 耐性菌
洗浄・消毒 滅菌
環境感染対策 SSI防止対策 教育その他

■ 看護師
■ 医師
■ パラ・メディカル

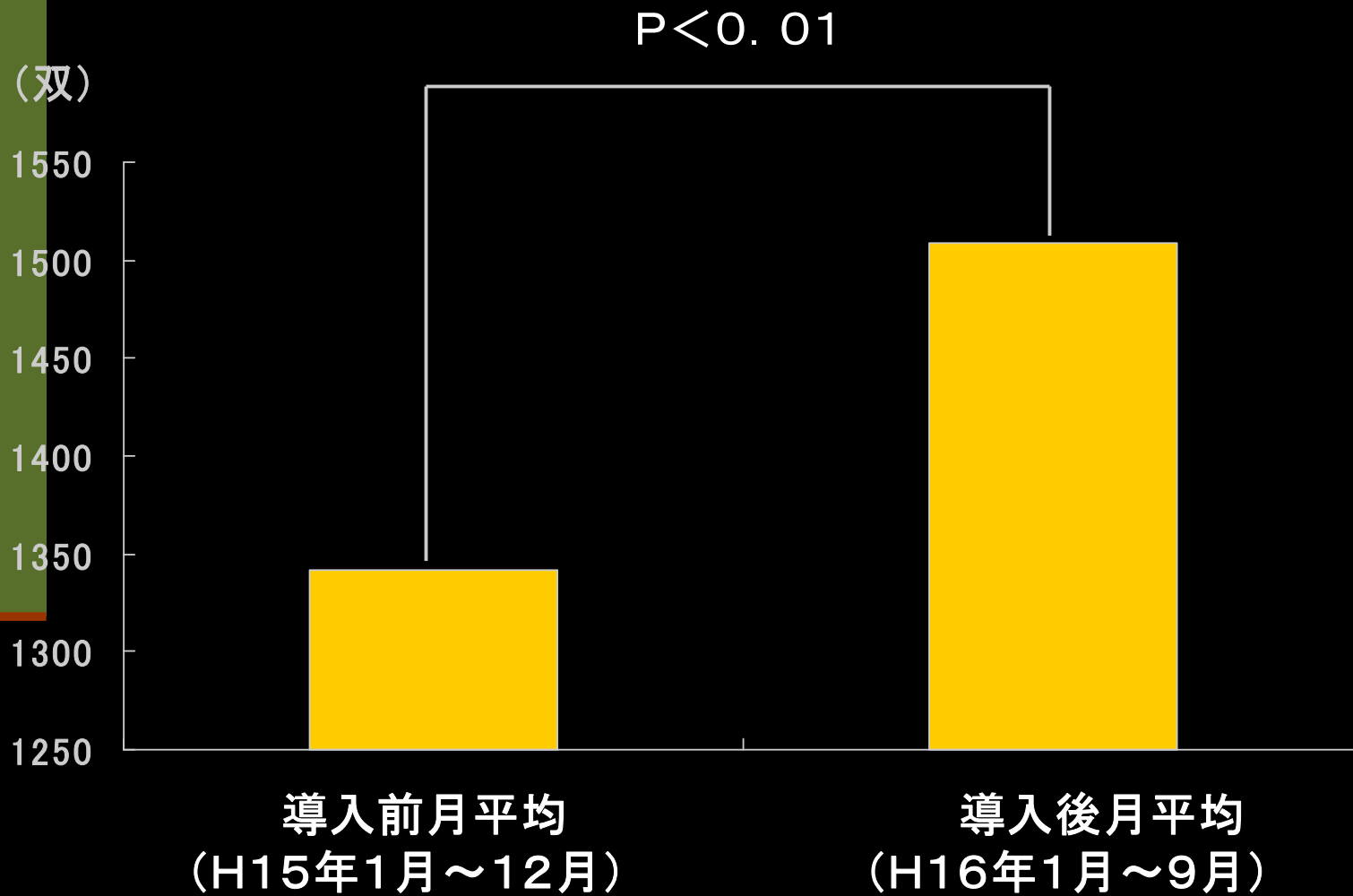
結果2 APICサーベイ評価



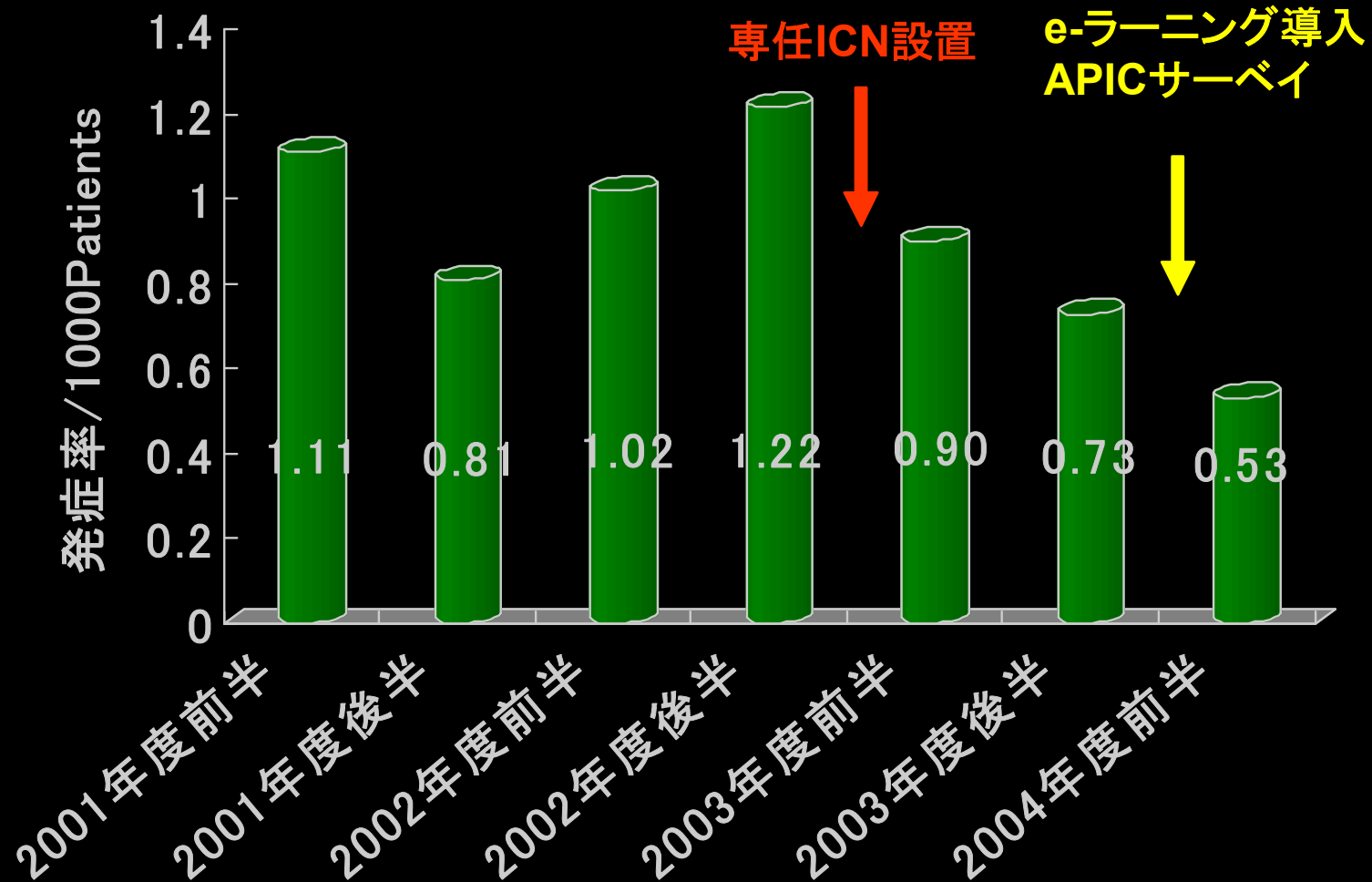
結果 ビニールガウン使用量



結果 手袋使用量



結果 MRSA院内発症率



考察

- e-ラーニングの導入及び感染サーベイの実施により感染対策の問題点が明確になった
- 学習進捗状況・理解度の把握ができた
- ICNが同時に現場への介入を行い、感染対策に対する意識が向上した
 - 防護用具の使用率向上
 - 多職種からの感染コンサルテーション依頼

今後の課題

- 教育の普及率と継続性の確保
 - 医師の学習参加率の向上
 - 評価システムの確立
 - 基礎知識の底上げからエキスパート教育へ
- 教育効果の質的評価
 - 患者安全の視点と医療経済の視点で適正に評価